

「城壁の再建と神殿の回復」 ～あなたは城壁で守られていますか？～

ネヘミヤ1：1～11

私たちは、最初に「こうする！」と思っていたことをだんだんと変えて記憶し行動するようになることが多いです。最初に私たちがどういう思いで始めたのか覚えていますか。神さまとともに「必ずやる」決意したものはやり遂げることが出来るのです。しかし、いつのまにかその決意が薄れて脱線し、最初の思いなんてすっかり忘れて、今ここになぜいるのか分からない…そんなことでいいのでしょうか。だから私たちはもう一度「どんな気持ちで神さまに出会ったのか」、まだ神さまに出会ってない人は「私はどのように生きると決断したのか」を忘れないようにしなければいけません。イスラエルの民はいつもこれを忘れていました。なぜかという、神さまに幸せにもらえるからです。私たちが忘れてしまうのはいつも幸せな時です。「幸せ」と言うのも本当の意味での幸せではありません。いわゆる（副産物としての）物質的な幸せです。しかし幸せのハードルはどんどん高くなります。イスラエルの民は紅海を割って助けてもらってもマナを降らせてもらってももうずらの肉を食べさせてもらっても、幸せのハードルがどんどん高くなり、最初の思いから脱線し不平不満ばかりで、最終的には自分がなぜ今ここにいるのかが分からなくなり、人のせいにしてしまうのです。だから、私たちは心の中で、脱線させる要因を心に入れさせない城壁の再建と神殿の回復を成さなくてははいけません。私たちの心は城壁で守られているのでしょうか。城壁無しで理想郷を作ろうとしても無理です。私たちの人生は鎧は着てても一部が丸裸…それではその一部が狙われてやられてしまいます。（ネヘミヤ1:1～11）補囚から逃れた民の声を聞いたネヘミヤにとって一番悲しかったことは崩された城壁がそのまま放置されていたことでした。敵に盗られたい放題にしていたのです。私たちの心はどうですか？城壁で守られていますか？壊れたままで奪われたい放題になっていませんか。だから私たちがしなければいけないことは、**①御言葉の城壁を再建することです**。自らで御言葉を学ばなければいけません。イスラエルの民はいつも自分たちの生活が第一で御言葉の城壁は後回しでした。その結果悪魔が撃ってきた火矢（妨害）に対して、神さまが正しい御言葉を教えてくれても自分に御言葉の城壁がないので、自分の考えや経験で判断してしまいます。イスラエルの先遣隊もカナンへの地に入る時、大きな国民と強さを見てカナンに行くのをやめようと思いました。自分たちの考えで判断したのです。しかしヨシュアとカレブは神さまの言った「乳と蜜の流れる地」が約束されていると信じていました。彼らは入ってきた情報が御言葉の城壁によって守られたのです。自分を見る時も人を見る時も、語られた言葉も目に入った情報も、御言葉の城壁を通して町（自分たちの心）に入れましょう。城壁で守られていないと、悪いことも良いことも、神さまからでも悪魔からでも、どんな情報でも入りたい放題です。きちんと検疫官をおいて良い情報か悪い情報かを見分けて入れるようにしましょう。でもその検疫官すら見分けられずに悪者をおいてしまうことがあります。神さまの言葉を排除して悪魔の言うことを通すのです。これで御言葉の城壁が再建されるわけがありません。だから自分で聖書を読んで御言葉の勉強をしましょう。（ヤコブ1:19～24）そして実行しましょう。日曜日のメッセージで、大事なことを神さまが語ってくださいます。でも御言葉がなければ私たちの中に入ってきてません。神さまはロゴス（昔語られた言葉）をレイマ（神の意思の具体的内容）をもって1つの言葉にします。だから聖書の言葉がなければいけないのです。いつも飢え渴いて御言葉を求めていきましょう。そして**②邪魔者を恐れぬ**。聴かない！！ようにしましょう。エズラ記5章で城壁を神の宮を立て始めた時、川向こうの総督タテナイとシェタル・ボズナイが妨害しに来ます。しかし、その時は負けずに王の許可を得ることが出来ました。（エズラ6:6・7）この教会も建設時に妨害にあいましたが神さまの声に聞き従って恐れずにいると建てることができました。だから邪魔者・誘惑に負けずにいきましょう。悪魔は私たちを畏にはめように日々つけ狙っています。嫌な環境におかれること・苦しいことにあいて、「なんで私だけ」と思うことがあるでしょう。でもそんな時を聖書は「この上もない喜びと思いなさい」と書かれています（ヤコブ1:2）。患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出す（ローマ5:3・4）と書かれています。モルデカイもヨセフも練られた品性をもって大臣になり、ダビデも王になりました。苦しいところを通らなかつたクリスチャンはいません。だけど苦しいところで終わったクリスチャンもいません。だから邪魔者を恐れぬでいきましょう。そして**③神さまとの約束に命をかけることをしましょう**。苦しいところを通っても、苦しみで終わらない希望を生み出す条件として、神さまとの約束に命をかけることがあります。ダビデが命がけで守った約束は「神さまを愛し・失敗したら素直に謝る（悔い改める）」です。私たちも失敗したら神さまに素直にごめんなさいと言いましょ。 （ネヘミヤ10:1～39）で、イスラエルの民は「自分たちがことごとく破っていた神さまと約束を守ります。もしこれをしなければ私たちの家に呪いが来ます」と約束しました。イスラエルの民は神さまとの関係・経済・生活の3つを正しくしますと約束しました。そうすると神さまに祝福されるのです。逆に約束を守らないと物事がうまく運ばず結果呪いがもたらされてしまいます。私たちは「神さまを第一にする」と約束しました。第一にせよというのは世の中の宗教がせよと言っていることとは違います。神さまを愛しなさいといっているのです。この愛をもって信仰に立って生活すれば正しいことが出来るのです。神さまは私たちに「人生を立て直せ」と語られました。神さまを礼拝する霊の機能、感情によって行動してしまう魂の機能という城壁、そして日常生活という当たり前と思ってきた私たちの人生という土地、この3つを修復しないとネヘミヤのような神殿回復が成されずイエスキリストが生まれて来なかつた…になってしまうのです。私たちは神の神殿です。神さまは私たちを愛しています。私たちに、誰かの人生を変えてしまうかも知れない力が授けられています。そのことを覚えて城壁の再建と神殿の回復をしていきましょう。（要約者：行司 佳世）